

立川

1

立川と語ろう 立川に生きよう
January 2005
écoutez bien Vol.23 No.242



表紙の人／松本ゆき子(柴崎町) 写真／細江英公

活性酸素 抑制にはセリ科

【にんじん】

ファイトケミカルを多く含む主要品目から、今月はセリ科の登場。
なかでも、にんじんはカロテンを多く含んで、活性酸素を除去してくれる。
今が旬の産直野菜で健康増進。

幸町の直売所は、台風の後も値段が変わらなかった。世の中に目の飛び出るような高いキャベツやレタスが出まわっていても、直売所にはいつもと変わらない値段の野菜が並ぶ。新鮮な朝どり野菜を手頃な価格で提供してくれるのが直売所。庶民にはありがたい存在だ。出荷者20軒の農家は手間ひまかけて野菜を育てる。横田基地と隣り合わせに畑を持つ岩田安雄さんは、分家して3代目。分散した5カ所の畑でにんじんはもちろん、葉ものや芋類を作っている。葉付きのままにんじんを



新鮮なにんじんは甘い



川野好司さんと進さん
(西砂町)

売ったら？とたずねると、「かえって大変なんです。機械で洗うから」。収穫して店に並べるにも手がかかる。五日市街道沿いの西砂町で多くの野菜を作っているのは川野好司さん。1年中出荷のとぎれることはない。

「まだまだだなあ、百種類作らないと百姓にはなれないからな。八百屋は八百だつてよ」と威勢がいい。息子の進さんは鉢植えの花作り。現役親子の分業で、立川の農家の先は明るい。

こうして手に入れた新鮮野菜、さてどうして食べる？今回は「みの揚げ」。油と調理するときにβカロテンの吸収がよくなるにんじん。芯には淡白なさみをいれる。「簡単な家庭料理だけど、ほらこうするときれいでしょ」と須田校長先生。油のなかでにんじんが花を開くように赤くなる。あしらったブロッコリーも今が旬。見た目にも美しく、食べておいしい。おまけに体にいいのだから、言うことなしのグッドメニュー。



岩田安雄さん(西砂町)

調理指導：須田享子(日本クッキングスクール)

写真：五来孝平、小林達実

●にんじんのみの揚げ

お正月にも使える華やかな一品

レシピ

材料(4人分)

材料(4人分)	卵 1個、水 大さじ1
にんじん 200g	小麦粉 大さじ4
鶏ささみ 4本	片栗粉 大さじ1
塩 小さじ1/5	片栗粉 少々
こしょう、	揚げ油
酒 大さじ1	ブロッコリー 1/2個

作り方

- 1 にんじんはせん切りにする。
- 2 ささみは1本を3切れの斜め切りにして(a)で下味をつける。
- 3 ボールに卵をときほぐし、水、(b)を加えて泡立て器でまぜ(1)を入れる。
- 4 (2)に片栗粉をまぶし、1切れずつ(3)で囲むように手で握って形を作る。
- 5 170°Cに熱した油に(4)を静かに入れ、揚げる。
- 6 ブロッコリーは小房に分けて塩ゆでし、つけ合わせる。

メモ

じゃがいも、かぼちゃのせん切りで魚を揚げたり、花椒塩、抹茶塩を添えてもよい。

子どもを生み育てる女性の教育が国をつくと信じています



於：えくてびあん編集工房 写真：五来孝平

アフガニスタンの女子教育支援を進める 藤枝 修子さん

■藤枝修子（ふじえだ・しゅうこ）／兵庫県神戸市生まれ。昭和18年（1943）に立川に移って以来曙町に在住。日本女子大学から立教大学大学院に進み、お茶の水女子大学理学部教授、同付属高等学校長、全国国立大学付属学校連盟理事長を歴任。理学博士。専門は複雑系分析科学。現在はお茶の水女子大学名誉教授、アフガニスタン担当特任教授、社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長、日本女子大学理事・評議員。

■芳賀敬博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

瓦礫の中の青空教室もありましたし、黒板に書くチョークもない、子どもたちは教科書もノートも鉛筆もない。学年ごとに時間制で子どもたちが入れ替わって授業を受けるんです。2003年に行ったときは、カブールの復興ぶりと同じように、もうチョークや鉛筆がないという状態ではありませんでした。教科書や理科の実験器材などまだまだ足りないものもありますが、コンピューターが入ったり急速に変わりつつありますね。ただ、治安状態が悪くなって、その後1年以上現地には行けないです。

芳賀 瓦礫の中の青空教室なんて、なんだか終戦直後の日本みたい。

藤枝 私も立川で空襲を経験して、戦後は墨塗りの教科書で勉強した世代ですけど、日本は戦争に負けましたが、墨塗りでもとにかく教科書だけがありました。教育は途切れなかったんですね。アフガニスタンは1979年のソ連軍の侵攻以来20年以上にわたって戦乱が続き、若い世代は戦争のない平和な時代を知りません。教育の基盤が壊されてしまっているんです。とりわけ女性は、伝統的に生理が始まるとすぐに結婚して家庭に入り子どもを生み育てる。字が読めず自分の名前さえ書けない女性がたくさんいます。彼女たちの識字教育も課題です。子どもたちが最初にいろいろなことを教えてもらうのは母親ですからね。現在の小さな女の子たちの教育が、将来の子どもたちを育て国づくりにつながる。そう信じます。

芳賀 ああそうか。女子教育というのはその次の世代の教育という意味でも大切なことなんですね。ものすごく気が長いというか、時間はかかるけれど国づくりに欠かせない。

藤枝 タリバーン時代に学ぶことを抑圧されていたから、向こうの生徒さんは学ぶことに対する真剣味というか、自

ら新しいものを吸収することへの飢えのような姿勢がすごいですね。我々が行った時に出勤授業をする機会があったんですが、教室に入った時から食い入るように見ている。日本語から英語、英語から現地のダリー語という二重の通訳をしても、けっこう充実した授業になるんです。こういう比較をすると失礼かもしれませんが、日本でも明治の初め、女の子が勉強をすると理屈っぽくなるとか嫁に行けなくなると言われました。そういう時代に女子教育のための新しい学校をという熱意から、津田塾とか日本女子大の前身が生まれました。私の母校である日本女子大からは平塚らいてうのような社会運動家も出ました。現在のアフガニスタンには、そういう熱気を感じます。

芳賀 きっかけは偶然のようなものとおっしゃいましたが、もうアフガニスタンとは切っても切れない（笑）。

藤枝 そうですね。私はもともと理科系で、5大学で支援をしようと準備を始めた頃は、恥ずかしながらアフガニスタンがどこにあるのかもよく知りませんでしたから（笑）。今では、イスラム圏の考え方を知らるためにコーランを勉強したり、なかなか上達しませんがダリー語を学んだり。専門分野のことより、もっぱらアフガニスタンのことで走り回っていますね。

芳賀 あの、藤枝先生のご専門は、ごくわかりやすくいうとどうということなんですか？

藤枝 分析科学の中でも複合領域科学とあって、わかりやすくいうと、熱帯魚の体の縞模様とか砂漠に風でできる縞、高速道路でできる自然渋滞の縞、複雑な化学反応でできる縞、そういう自然界共通の縞のできる現象がどうして起こるのかということを実験的に探求していく研究です。秋葉原で部品を買って実験機材を作ったり、北海道にあった無重力に近い状態を作る施設で実験をしたり。まあ女子大でこういう研究をしているところは少ないですが、5つの女子大が集まると、ほとん

どあらゆる分野をカバーできるんですね。私たちはロールモデルと呼んでいますけど、アフガニスタンに限らず、途上国の女性たちがこういうことをしたいと思う時に参考にできる例がそろっている。ここが女子大ならではの教育支援ではないかと思えますね。ちょっと自己宣伝になりますが（笑）。

芳賀 1月にはアフガニスタンから第3回の指導的的女子教育者の方たちが研修にいらっしゃるそうですね。

藤枝 1月中旬から2月中旬にかけて4週間にわたって日本に滞在し、日本の教育を視察したり、関心分野の調査、日本側との意見交換や、大学や付属学校で学生生徒と触れ合ったり。いま最終的なスケジュール調整をしています。いらっしゃる16名のうち10名は首都カブール以外の地方都市の先生方です。人口が集まり復興も進むカブールと地方都市、地方都市間の交通事情は非常に悪く、地域間格差や都市と農村の格差、公用語だけでダリー語とパシュトゥー語がある複雑な民族・部族など、これから解決していかなければならない問題は山積していますが、かつてはベルシア文明を担い、1973年に王政が倒れるまでは美しい国土を誇っていました。アフガニスタンの人たちはそのことに誇りと自信を持っているんです。

芳賀 たくさんの民族が、かつてはみんな仲良く住んでいたわけですね。平和のためにも、教育の力は大きい！

藤枝 日本にいらっしゃった教育者のみなさんが、人々が武器を持たなくてもちゃんと暮らしている、平和とはこういうものなんだということを日本で実感していただくだけでも、ものすごく意味がある。女性の識字率も私たちが最初に行った当時数%だったのが現在は40%に激増したといえます。自分の国に誇りと熱意を持った先生たちが、学ぶことに熱心な子どもたちを教えていけば、必ず自分たちの手で立派な国を作って行かれますよ。

柏町	ベーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
	ピーコック 玉川上水店	柏町4-1-2 538-3861
	菅家 医院	柏町4-2-15 536-4602
	ドレスショップ ポワッソ・ルージュ	柏町4-56-10 534-6567
	うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
	レストラン&BAR WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569
泉町	東京消防庁 立川消防署	泉町1156-1 526-0119
曙町	陸上自衛隊 立川駐屯地	曙町5番地 524-9321
	うなぎ しら澤	曙町1-9-21 524-5061
	有限会社 クスミ不動産	曙町1-16-2 522-4739
	不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
	ヤマハエブリプラス立川店	曙町1-27-10 523-1431
曙町	蕎麦懐石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
	TABACCONIST ゼフィルス	曙町1-28-9 524-0514
	ビストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
曙町	あら井 鮎 総本店	曙町1-30-13 522-2957
	Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
	三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-11F 527-5587
	KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-11F 527-2322
	オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-17F 527-2311

えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 柏町・泉町・曙町・曙町のお店です。

曙町	東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
	和生菓子製造直売 日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
	オリオン書房 第一パート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
	みずほ銀行 立川駅前支店	曙町2-4-6 522-5151
	みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
	お菓子の家 エミリーフロゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
	カフェ クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
	宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888
曙町	三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151
	Italian Cuisine サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662
	Art&Caffee Room 新紀元	曙町2-7-21-4F 528-6952
	シネマカフェ	曙町2-8-5 525-1237
	多摩中央信用金庫 本店	曙町2-8-28 526-1111
	たましんギャラリー	曙町2-8-28-9F 526-1111
	三上 鯉 節 店	曙町2-8-30 522-3259
	旬彩懐石 若草茶屋	曙町2-8-30 526-0010
	真如苑たま広報センター Mare	曙町2-9-1 521-6201
	輸入文具 ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
	ステンドグラス ぱさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
	スパゲティ専門店 はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338

平成の甍

火災を乗り越え再建された普濟寺

平成七年、放火による火災で堂宇、仏像、内部の荘厳、文化財など
 ほぼすべてを消失した立川の名刹・普濟寺。
 二代にわたる住職はじめ檀信徒の尽力により本堂、庫裏、客殿が完成し、
 十年ぶりに多摩川を望む伽藍の偉容
 が復活した。

悲痛事乗り越え、伝統技術の粋を
 集めて再建された平成の甍。
 十月二十八日には晋山式、落慶式の
 盛儀が執り行われた。

南北朝時代の文和二年（1353年）、立川の地名
 の起源である立川氏居城の一角に開創、江戸時代の
 「江戸名所図会」にも描かれた玄武山普濟寺は、歴史
 ある古刹というだけでなく、やはり放火による火災
 から再建成った諏訪神社とともに、今も多くの立川
 人の心のふるさととなっている。

十月二十八日の晋山式、落慶式は改めてそれを感じさせた。抜けるような晴天下、境内と参道が檀信徒で埋まった。五色の幕に飾られた本堂には臨濟宗建長寺派を中心に約230人の和尚方、市内外からのご来賓。やがて稚児行列を先頭に弓場重典住職が新命の普濟寺第二十七世天外重典和尚として参道を進む。迎える婦人檀信徒の御詠歌、山門の偈、昇殿……禅宗の伝統に則った晋山式、続く落慶式は、一幅の絵巻物を見るように進められた。

火災を免れた国宝「六面石幢」を除けば、建造物だけでなく、本尊「聖観世音菩薩像」をはじめ、ほぼすべての仏具、調度も新たに調えられた。寺院建築の粋を集めた堂宇はもろろん灯籠や香炉にいたるまで、そのひとつひとつに最善の心を込めて次の時代に伝えたいという願いがこもる。平成の世に成った新たな伽藍から、立川の心のふるさと普濟寺の新たな歴史が始まる。

写真・五来孝平



伝統技術の粋を集めた本堂内部



本堂の和尚方、米賣の間を新命和尚が進む



新たな普濟寺の使命を担う弓場重典住職



山門前では御詠歌の奉詠



参道を進む新命和尚



先頭を行く稚児行列



写真・森洋利



常楽我浄
真如苑提供番組組じょうらくがじょう
スカイパーフェクTV 216ch、マイテレビ 84ch
土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。
立川に育てられて六十八年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

SEIBU
西武信用金庫
立川南口支店
〒190-0023 立川市柴崎町3丁目5番15号
tel. 042-529-1311 fax. 042-529-1316

私たちは「と」のための会社です。
人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1949 FAX 042-527-1949
E-mail info@daihougya.jp

ステージ、出前します。 地域文化振興財団が身近な文化活動を支援

身近な集会所や施設で音楽や公演を楽しみたい。でもどうやっていいの？ そんな悩みに市民会館・アミューたちかわを運営する立川市地域文化振興財団が手を貸す「コミュニティー・ステージ」事業がスタートした。

多くのコンサートや公演を手がけている財団の情報やノウハウを役立て、市内の地域文化活動を支援する、いわば「ステージの出前」。申し込んだ団体の希望を聞き、相談しながら演奏者や出演者を選び、コーディネートしてくれる。

第一弾は11月13日の天王橋会館「一番町みんなのコンサート」。五中、七中、松中小学校の児童生徒による吹奏楽演奏に続いて、トランペットとクラリネット二人、ピアノの編成で活躍するアンサンブル・ア



11月13日天王橋会館、アンサンブル・アペルトの演奏

ペルトがクラシックや映画音楽などを披露。地域の人たちも小中学生もプロの吹奏楽アンサンブルを楽しんだ。

引き続き11月20日にはさかえ会館で落語ともまね、27日には富士見町の特別養護老人ホーム・フェローホームズで立川市児童合唱団と、内容もバラエティーに富んでいる。開催の希望や問い合わせは同財団コミュニティー・ステージ係(042-526-1312)まで。

この人この店 ⑱

リサイクル着物と仕立て屋 紅丸

代表 伊藤美紀さん

今回登場いただいた「紅丸」さんは探さなければ見つからない。「口コミだけが便利なんです」とおっしゃる割には忙しそう。それもそのはず。ただ着物を売っているだけじゃない。お客様が持っている着物を生かしてお直ししてあげるのが得意なのだとか。和裁師の腕前で、その人が一番きれいに見える着物姿を作り上げてくれる。「毎日のファッションの一部にしてもらいたいんです」なんておっしゃるけれど、やっぱり着物は縁遠い。第一値段が高いんでしょう？ 「うちの主流は一万円前後かな」。でも着付けができない。「買っていただいた特典として、無料着付けもありますし、4回で覚えられる着付け教室もやっています」。トータルでサポートしてくれるなら着られるかも……。だんだん着物が身近になってきました。



半襟や帯留めなどの小物で粋に遊べます



〒190-0022 立川市錦町3-5-4 錦町MSビル202号
TEL 042-525-6955
http://benimaru.jp
営業時間 11:00～19:00
定休日 毎週水曜日

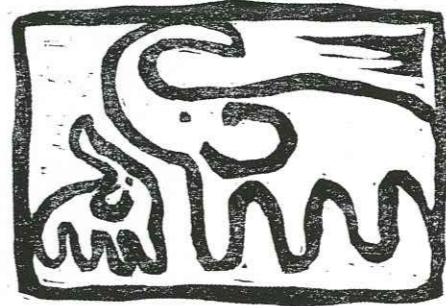
写真：五来孝平

いちばんそんけいするひと

森 忠明

娘の蘭(立川二中二年二組)の作文が(第24回立川市中学生の主張大会で)努力賞と認められ、十一月七日、アミューたちかわホールにおいて表彰式があるから是非とも出席してほしい、という通知がきた。

「賞状だけらしいし……どうしようかな」
これが娘の第一声。次が祖父の応え。
「なんだ、キャッシュが欲しいのかよ」
「まあね。せめて図書カード」
「オレが昔もらったNHK賞だって賞金なしだよ。出席しな。でないと親の顔が悪いと思われちゃうぞ。このオレが一番尊敬してた寺山修司先生だって、ノーギャラ講演を引き受けてたんだからな」
「パパ。たしか『一番尊敬してるのは、まど・みちお』って言ってなかった？」
「年度ごとに変わるんだよ。2005年もまどさんだろうけど。まどさんは奇跡的に偉い人でな、オレが出した手紙には必ず丁寧な返事をくれるんだ、九十過ぎの最高峰の詩人がだぜ。それにひきかえて何だよオレの弟子どもは。園田英樹はポケモン映画脚本取材でさ、ドイツや中国を飛び回ってるのに、絵葉書ひとつよこさんし、森絵都は受賞や結婚の知らせもよこさねえし、志茂文彦は『テニスの王子様』なんかで大稼ぎしてるんだから『お金貸します』ぐらい言ってくるもいだよ。オレが死んだあと、あいつらが一人で偉くなったようなことをテレビや新聞でホザいたら、うちの



挿画：野崎義成

物置からあいつらの下手糞時代のヘッポコ原稿をみつめて公開してやれ。人間はな、謙虚さと恩を忘れたら屑以下よ」
「それはやめとく。園田先生も絵都さんの本も好きだし、志茂さんには赤んぼのとき白熊のぬいぐるみプレゼントされてるし……。だいいち、公開なんかすれば、パパの弟子たちへの教育が悪かったからってことになるんじゃないの」
またまたイッポン取られた。
まど・みちおが、どこまでも謙虚で礼儀正しいのは、師・北原白秋のシツケ？が良かったせいもあるだろう。白秋と私とは勝負にならない。
へはいふく。ご新著「ハイティーン詩集」をお恵みに与りありがとうございます。詩に限らず言葉づかいの凄い名人でいらっしやる。と、かねて存じあげていました。が寺山修司がこんなに惚れこんでいたのだと知って、何も申し上げられない気分です。申し上げます。ご署名の文字もなかなかでした。手のふるえる私の文字は読む人泣かせなのがジマンというほどでもありませんが、一層のごかつやくとごけんこうを！
おとしの四月、まど先生がくださったこの葉書を見つめながら、『ぞうさん』の替え歌を口ずさむ。究極の親馬鹿なのである。
からーんさん からーんさん あーたまが いーいのね そーよとうさんも いいのよ。

松本 ゆき子さん(柴崎町)

近代箏曲の基を築いた宮城道雄の直弟子にして、主宰する松柏会での後進の育成、女子高校の生徒の指導、さらに新曲の創作、演奏を続けている。「お琴」とひとくちいって長い伝統のある世界は奥が深い。ご母堂の故・松本美根代さんのもとで幼少から箏に親しみ、宮城道雄に師事、東京音楽学校分教場で声楽と箏を学んだ。立川の地で長年にわたって伝え続けてきた箏、三絃の輪は、多くの門人たちによってしっかりと多摩各地に根をおろしている。古典曲はもちろん、創作曲、さらに二胡など他ジャンルの演奏家との競演と、活躍ぶりはむしろ若々しい。

柴崎町自宅ビルで 写真：細江英公

かたこと

明けましておめでとうございます。平成17年、西暦2005年、乙酉(きのととり)最初のえくてびあんをお届けいたします▼実際に拙文を書いているのは旧年中、しかもまだひと月も残っている時期なのですが、おめでとうございます、と書くだけで気持ち新しく感じられるから不思議です▼大晦日と元旦、その間に何か線が引いてあるわけではありません。しかし日本人は昔から旧い年が改まり新しい年になることに生命の再生を重ねて見てきました。一夜明ければ新春であり、年齢だって数え年だとお正月でひとつ増えます▼立川の文化については何でもご存知の三田鶴吉さんに教えていただいたのですが、元日の朝、立川ではちょうど多摩川の真ん中から日が昇り、富士山の頂上に日が沈むのだそうです。一年の始まりにふさわしい自然の妙です▼お祝いすべきということでは、VIEWでご紹介している立川の名刹、普濟寺の再建と落慶法要があります。未来に向けた新たな文化財、心の安らぎの場としてこれからは大切にされていくに違いありません▼対談させていただいた藤枝修子さんはアフガニスタンの女子教育に取り組んでいらっしゃる。女の子にしろ男の子にしろ最初の教師は母親。道のりは遠くても国づくりの土台を作るお仕事です。こうした発想も、やはり女性だからできるのかもしれない▼今年もよろしくお願ひ申し上げます。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平/小林達実

えくてびあん ⑱ 1月号

第23巻 通巻242号
平成17年1月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敬博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



郷愁への旅

乗兼広人 銅版画 [最終回]



「山村(忍野)」

2001年 26.0×18.0cm 1版・グアッシュ

この連載もいよいよ最終回。最後はお正月らしく山梨県忍野八海から見た富士山である。どこから見た富士が美しいか、いろいろ議論があるが、大方の評価と同じく私も山梨側、それも忍野のあたりから見た富士がいちばん好きだ。高速道路で二時間ほどで行ける手軽さもあって四季を通じて取材に訪れる、いわばホームグラウンド。作品としても忍野からの富士は多い。

掲載作は厳冬期。雪の水田に稲の刈り跡が黒々と並び、茅葺きの民家の向こうに富士が姿を見せる。忍野でも良く知られた場所で、晴れた日には写真を撮る人たちが賑わう。これだけ多くの人を惹きつける富士は、やはり日本人の心のふるさとなのだろう。

日本人の心、日本の文化、日本の風景。結局、私は日本が好き。銅版画家なのだ。とつくづく思う。その風景を訪ねてまた旅に出る。旅は長い道であり終着がない。版画の道と同じように。本連載の六作品を通じて、ご自分の故郷をなつかしく思い出していただいたら、こんなに嬉しいことはない。ありがとうございました。